



空き家利活用コンテスト2022 審査員特別賞(コンセプト賞)



非住宅部門

事例 07

西部ろうあ仲間サロン会 2号館

大きな古民家の包容力を生かし、
聴覚障がい者と地域住民の交流拠点に



特定非営利活動法人西部ろうあ仲間サロン会は、主に手話を言語とする高齢ろうあ者のよりどころとして、8畳2間の小さな民家から活動をスタート。毎回の参加者が25名以上となり、手狭になってきたことから、約21年間空き家となっていたこの物件にたどり着いた。

内浜街道沿いにある大きな古民家の、1階のみを改修。隣り合う4つの和室を全てつなげ床板を敷き、28畳の広い交流スペースをつくり上げた。ダイニングキッチンを利用者の昼食を作る場所に、続く和室は休憩室、洋室は事務室として使用。また12畳のスタジオは、地域の話や学習用の手話動画などの撮影スタジオとして活用している。十分な部屋数と広さがあるので、活動の幅が広がっているようだ。

高齢聴覚障がい者が気兼ねなく集まれる場所は皆無に等しい。そのため、会では拠点創出や理解啓発活動に注力してきた。さらに目指すのは、障がい者だけでなく、地域住民も気軽に立ち寄ることができ、お互いを理解し合える拠点となること。この古民家の包容力を十分に生かし、地域の人々が皆が笑顔で過ごせる「まちのおうち」となれるよう力を尽くしている。

28畳の広さがある1階の交流スペース。美しい欄間が古民家の佇まいを今に伝えている。敷居は取り除き、フラットにして全面フローリングに。普段はテーブルといすを置いているが、それらを片付けて皆で「ポッチャ」や「映画の上映会」楽しむこともある。



交流スペースには広縁が。ベンチに腰かけてゆったりできる。



1つだけ畳の間を残し、利用者やスタッフが休息できる休憩室を設けた。交流スペースから離れているので、個室感があり静かに過ごすことができる。カーテンで仕切れる一角は、利用者の相談に応じるスペース。



ダイニングキッチンも16畳と広い。ゆくゆくは利用者と一緒に料理したり、近隣住民が喫茶店感覚で気軽に集えるような場所にしたいという。



(写真上) 手話動画を撮影するスタジオ。撮影しやすいよう壁紙は白一色、機材もそろっている。
 (写真左下) 利用者を出迎える玄関ホール。様々な情報を視覚的に伝えられるよう掲示板やパンフレットスタンドを設置している。
 (写真右下) 広縁には本や雑誌が置いてあり、お茶を飲みながら読書を楽しむことも。



[DATA]

- 【所在地】米子市旗ヶ崎6-15-26 【構造】木造2階建て
- 【築年月】90年前(母屋)～約50年前(増築部分)
- 【改修後の用途】地域交流拠点
- 【間取り構成】交流スペース、スタジオ、相談・休憩室(和室)、事務室、
ダイニングキッチン、トイレ、浴室(未使用)、2F(未使用)
- 【改修期間】2021年10月～2021年12月
- 【改修費用】約1,000万円